

用語集

【COC事業】

「大学等が自治体と連携し、全学的に地域を志向した教育・研究・地域貢献を進める大学を支援することで、課題解決に資する様々な人材や情報・技術が集まる、地域コミュニティの中核的存在としての大学の機能強化を図ることを目的としています」(文部科学省ホームページ)。

【COCプラス事業】

「地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)」を発展させ、地方公共団体や企業等と協働して、学生にとって魅力ある就職先を創出・開拓するとともに、その地域が求める人材を養成するために必要な教育カリキュラムの改革を断行する大学の取組を支援することで、地方創生の中心となる「ひと」の地方への集積を目的としています」(文部科学省ホームページ)。

【iOP (Internship Off-Campus Program)】

本学では、平成29年度から全学的に2学期クォーター制を導入する。2学期クォーター制とは、従来の前学期、後学期の2学期制の枠組みを残しつつ、各学期をさらに半分に分け、1年間を4つの期間(クォーター)に分けて授業を実施するものである。

その中で、3年次の第3クォーターを「iOPクォーター」と呼び、必修科目を開講せず、この機会を利用して海外留学やインターンシップ、ボランティア活動などに積極的に参加できる環境を整え、大学教育で求められる、生涯にわたって学び続ける力、主体的に考える力を持った人材を養成する。

【PBL】

実社会で役に立つプロジェクト課題を学生にグループ単位で与え、その課題を達成するためのアイデアの創出、計画立案、実現等を学生自身に遂行させることにより、学生の学習意欲、知識の活用能力、計画立案・遂行能力、ディベート能力、プレゼンテーション能力、組織運営能力等の向上を図るための学習・教育の方法。Problem - based Learning 又は Project - based Learning の略。

【アクティブ・ラーニング】

教員による一方向的な講義形式の教育とは異なり、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法の総称。学修者が能動的に学修することによって、認知的、倫理的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図る。発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習等が含まれるが、教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等も有効なアクティブ・ラーニングの方法である。

【インターンシップ】

学生が在学中に、企業等において自らの専攻や将来希望する職業に関連した職業体験を行うこと。

【コンソーシアム】

複数の個人や法人、団体が集まり結成される組織・団体の一種で、同種の団体が集まって共同事業を行ったり、特定のテーマや目的に関連する企業や団体、個人が共同で活動を行ったり、

参加者が財産や権利を出し合って共同で運用したりするもの。

「いばらき地域づくり大学・高専コンソーシアム」（会長：三村 信男 茨城大学長）は、茨城大学、茨城キリスト教大学、茨城工業高等専門学校、常磐大学、茨城県立医療大学、茨城女子短期大学、筑波大学、筑波学院大学、筑波技術大学、つくば国際大学、日本ウェルネススポーツ大学、放送大学（茨城学習センター）、流通経済大学の13校で構成され、全県における地域振興事業や人材育成に向けた取り組みを行い、各校の特徴や強みを相互に共有することで、茨城県内への進学や雇用促進、人材育成、地域活性化に向けた協働の取り組みを推進していく。

【サステナビリティ学】

サステナビリティ学（Sustainability science）とは、地球温暖化や大量生産などによる地球規模の喫緊の問題を解決すべく、持続可能な地球社会へ向けて地球持続ビジョンを構築するための基礎として提唱されている超学的な学術。

【ステークホルダー】

ステークホルダー（stakeholder）とは、企業・行政・NPO等の利害と行動に直接・間接的な利害関係を有する者を指す。日本語では利害関係者という。具体的には、消費者（顧客）、従業員、株主、債権者、仕入先、得意先、地域社会、行政機関など。

【ティーチング・アシスタント（TA）】

優秀な大学院学生に対し、教育的配慮の下に、学部学生等に対するチュータリング（助言）や実験、演習等の教育補助業務を行わせ、大学教育の充実と大学院学生のトレーニングの機会提供を図るとともに、これに対する手当での支給により、大学院学生の処遇の改善の一助とすることを目的とした制度。

【ディプロマ・ポリシー】

各大学がその教育理念を踏まえ、どのような力を身に付ければ学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。

【ファカルティ・ディベロップメント（FD）、スタッフ・ディベロップメント（SD）】

ファカルティ・ディベロップメントは、教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取組の総称。具体的な例としては、教員相互の授業参観の実施、授業方法についての研究会の開催、新任教員のための研修会の開催等を挙げることができる。なお、大学設置基準等においては、こうした意味でのFDの実施を各大学に求めているが、単に授業内容・方法の改善のための研修に限らず、広く教育の改善、更には研究活動、社会貢献、管理運営に関わる教員団の職能開発の活動全般を指すものとしてFDの語を用いる場合もある。

スタッフ・ディベロップメントは、事務職員や技術職員等を対象に、管理運営や教育・研究支援までを含めた資質を向上させるための組織的な取組の総称。SDと略して称されることもある。

【ワークショップ】

学びや創造、問題解決やトレーニングの手法である。参加者が自発的に作業や発言を行なえる環境が整った場において、ファシリテーターと呼ばれる司会進行役を中心に、参加者全員が体験するものとして運営される形態。